



森林環境譲与税を活用した林業振興の取り組み（森林が有する保水能力を活用し流出抑制を図ります）

- 1 現況
- 地球温暖化防止対策や災害防止等を図るため、令和元年度から、配分が始まった「森林環境譲与税」を活用し、次の事項に取り組みます。
- (1)間伐や路網整備等の森林整備
- (2)森林整備を促進するための人材育成・担い手の確保
- (3)森林整備を促進するための木材利用の促進や普及啓発
- 2 課題
- (1)森林の経済ベースでの活用を促進していくために、市内の森林資源や地形の状況を詳細に把握し、地域の特性に応じた効率的な森林施業を推進する必要がある。
- (2)森林施業の増加に伴い、林業労働力の不足が懸念される。
- (3)森林資源の循環を図るために、盛岡市産材の利用を推進する必要がある。

◆盛岡市に譲与される森林環境譲与税額の見込み（林政課試算）【単位：千円】

年 度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5 (見込)	R 6～ (見込)
譲与税額	36,958	78,538	78,509	102,152	101,797	125,101

◆森林環境譲与税活用事業実績【単位：千円】

年 度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5 (予定)	基金残高 (R5末見込)
事業費	31,210	64,081	71,037	36,006	57,448	138,172

※主な活用事業(R1～4実績)

①森林整備(航空レーザ計測解析等)：171,226千円(84.6%)

②担い手確保(魅力発信パンフレット等)：9,836千円(4.9%)

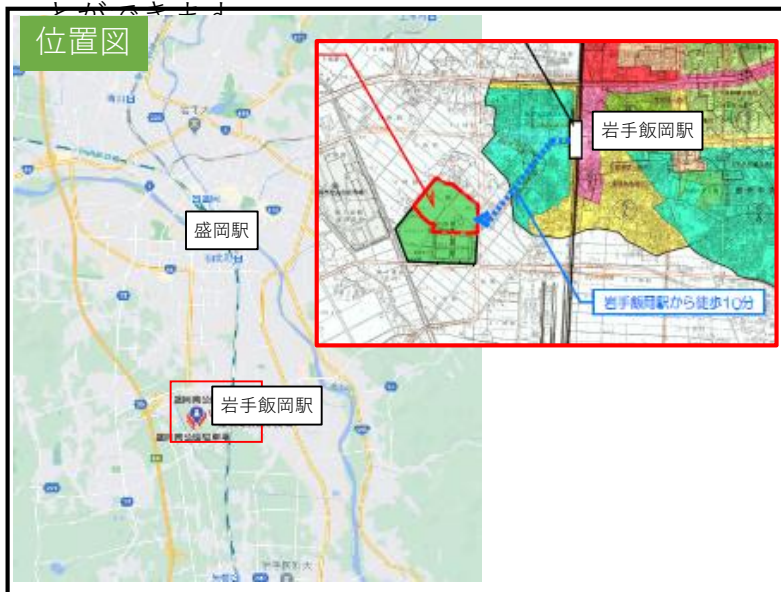
③市産材利用・普及啓発(新野球場、BCへの市産材支給等)：21,272千円(10.5%)

- 1 対応策
- (1) 森林整備
- ①航空レーザ計測による解析データの活用
- 令和元～4年度に実施したザ計測解析で得られた、木の込み具合や成長具合、土地や路網状況などの情報に基づき、整備が必
- 要な森林の特定や施業内容を検討し、市内32区域ごとに林業施策の方針となる「森林整備・林業生産ビジョン」を順次策定する。
- (令和5年度は3地区を実施)
- ②人工林の伐採跡地への再造林及び除伐の促進
- 再造林に対する国・県の補助に上乗せや除伐に対する市独自の支援を行う。
- (2) 担い手確保
- ①林業の現場見学会等の実施により、林業の魅力を発信する。
- ②中学校に市産材の木工材料を提供し、林業出前授業を行うなど
- | 年度 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7以降 |
|---------------|------------|---|------------------|-------|
| 森林整備 | 航空レーザ計測・解析 | 森林整備・林業生産ビジョン作成
《R5:寺林・姫神・巻堀、手代森、川目東部》 | 路網・森林整備 | |
| 担い手確保 | | 森のしごと見学会 | 木育推進事業 | |
| 市産材利用
普及啓発 | | 商業店舗 木質化補助(通年) | 「公益的施設の整備」の市産材活用 | |

公園貯留（維持管理が容易で安全性の高い防災調整池）（排水調整池を整備し流出抑制を図ります～通常時は駐車場として活用）

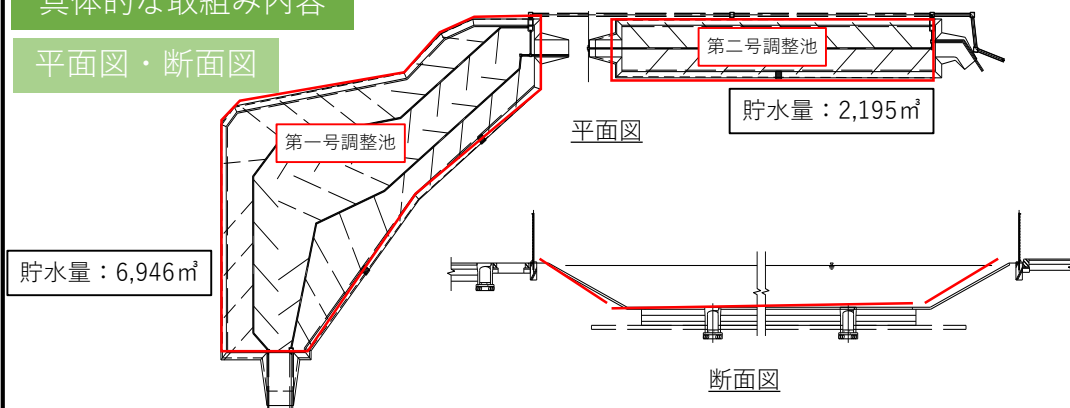
防災調整池は敷地外周の利用頻度の低い駐車場の一部を掘り下げ開渠として確保します。これにより、工事期間中及び供用開始後の周辺住宅や水田への雨水の流出を確実に防止し、また、開渠とすることで地下式に比べ日常の点検や清掃が容易に行うこ

位置図

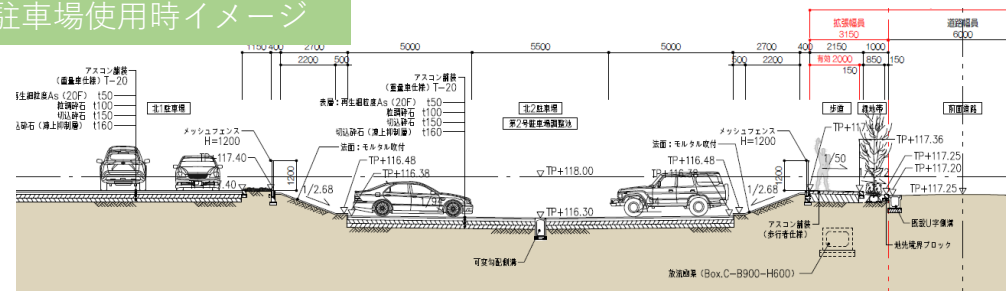


具体的な取組み内容

平面図・断面図



駐車場使用時イメージ



調整池の啓発活動



駐車場調整池の啓発活動の一環として、管理者をはじめ地域住民に広く認識・理解を得られるよう、施設の目的・効果・概要・注記等を記した看板（サインボード）を設置している。

パース図



まちの緑の施策 （まちの緑の環境保全に取り組むことにより流出抑制を図ります）

盛岡市では緑の基本計画において、まちの緑の整備、持続可能な維持管理及び利活用促進を目的として、「まちの緑の施策」を定め、緑の環境保全に取り組みます。

施策の概要

【基本方針１】緑を適正に管理し、持続可能な緑の環境を整えます。

【戦略１】計画の適正な運用や指導による緑の環境の維持

【戦略２】緑化活動の支援による新たな担い手の育成

【基本方針２】つながりの空間を目指し、緑の利活用を促進します。

【戦略３】利用しやすい公園の供給による交流の促進

【基本方針３】緑の多機能性を活かし、魅力的な緑をつくります。

【戦略４】地域の実情を踏まえた公園機能の分担

【戦略５】民間活力を活かした緑の整備・更新



盛岡城跡公園（岩手公園）



クラフト Park たかまつ（公園活性化プラン）



市民協働による開運橋花壇の緑化活動

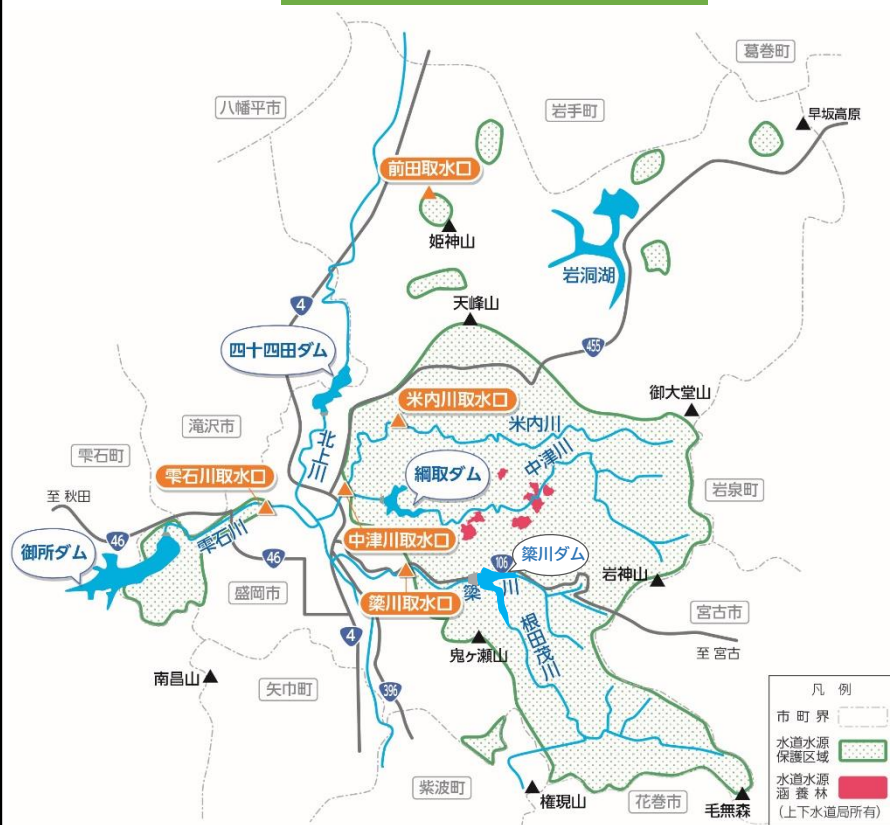
実施時期

前期（R3～ R5）	中期（R6～ R8）	後期（R9～ R12）

水源涵養林の保全・整備（水道水源水質保全促進事業）（水源涵養林が有する保水能力を活用し流出抑制を図ります）

- ・水道水源水質保全促進事業は、良好な水道原水を確保するため、水源涵養林の育林、保全等により水源区域の涵養機能の向上を図る事業です。
- ・安全でおいしい水の供給には、水道原水の良好な水質と水量を確保する必要があり、現在の状況を将来に亘り維持するため、取得した涵養林の間伐や整理伐等の維持管理を継続して実施していきます。

盛岡市水道水源保護区域図



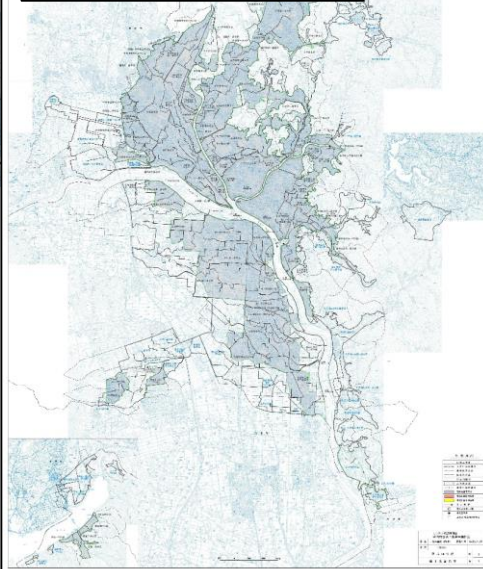
水源涵養林の保全・整備



開発行為等における雨水浸透施設の設置を推進し、公共用水域への雨水流出抑制を図ります。

公共下水道事業計画区域内における開発行為において、盛岡市では雨水の流出抑制を図るため、雨水浸透施設の設置を推進しています。

下水道事業計画一般図



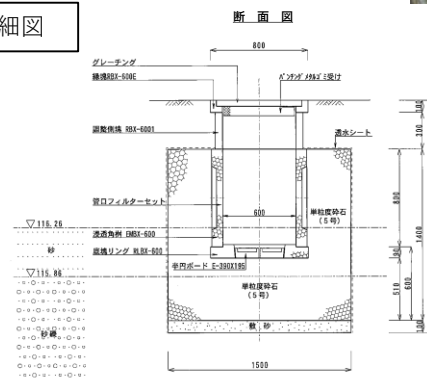
区画毎に浸透樹を設置することで、道

区画毎に浸透枥を設置することで、道路側溝への雨水流出を抑制します。

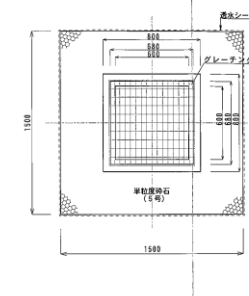
浸透枳内部
枳下部が透水性の素材となっており、区画内の雨水を地下に浸透させます。



詳細図



平面図





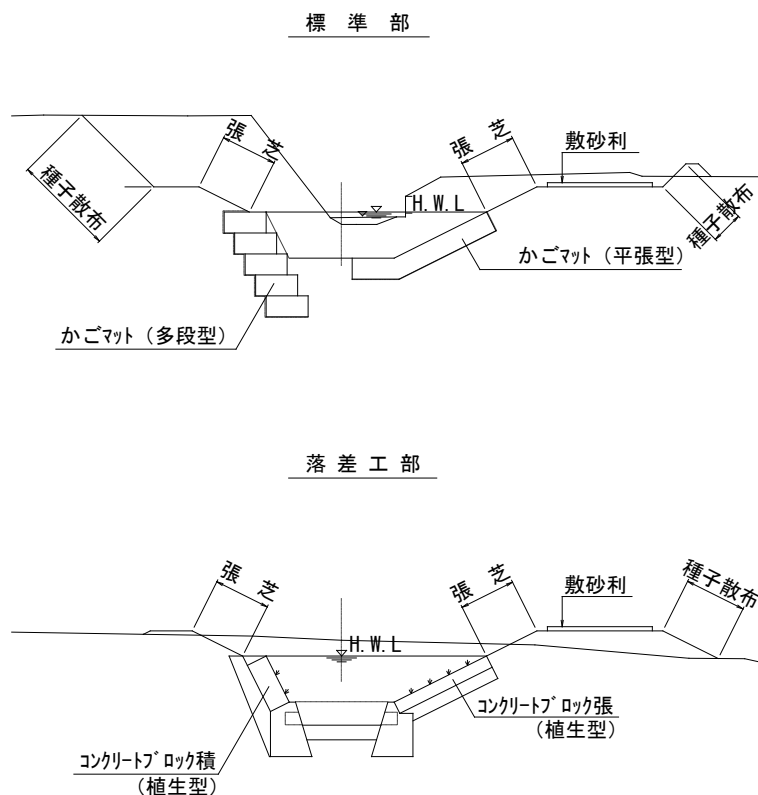
準用河川の多自然川づくり（準用河川改良事業）

（多自然型護岸整備で流出抑制を図ります）

都市化による雨水流出量の増加や、近年の局地的な大雨による浸水被害を防ぎ、快適で安全な暮らしを守るため、河川の整備を促進し、治水安全度の向上を図ります。

図面

標準断面図（準用河川大葛川）



具体的な取組み内容

- ・周辺環境に配慮し多自然護岸による整備を実施します。
- ・現地の土を植生型ブロックの中詰め材として利用することで現況の生態系を保全しながら河川整備を進めます。

状況写真

準用河川大葛川



整備前



整備後

準用河川の整備スケジュール

	短期（～R7）	中期（R8～R12）	長期（R13～）
準用河川全体	→		



水生生物・植物調査（生物の生息により環境保全し流出抑制を図ります）

河川整備事業の整備前後での水生生物や植生の生育状況を調査し、現状の各管理河川の環境や状態を理解する様に努めていきます。

取り組み内容

- 毎年、春・秋の2回調査。
- 各河川の未整備区間・整備済み区間を調査し、水生生物（指標生物）の生息数、植生の復元状況を比較します。
- 過去16年間の調査で、整備後に水生生物の生育環境が悪化した河川はありません。植生の復元状況も良好です（特に環境保全型ブロック）。

調査の様子



植生状況



指標生物



汚い水質の生物



綺麗な水質の生物

浚渫事業 (河川の連続性を確保することにより浸水被害を防ぎます)

都市化による雨水流出量の増加や、近年の局地的な大雨による浸水被害を防ぎ、快適で安全な暮らしを守るため、河川の浚渫や樹木の伐採を推進し、治水安全度の向上を図ります。

具体的な取り組み内容

盛岡市内の準用河川及び普通河川において、日常の河川巡視に加え、年1回河川パトロールを行い土砂の堆積状況や樹木等の繁茂状況により必要箇所の浚渫を実施します。

浚渫が必要な箇所うち市街地に隣接する河川や、氾濫により地域に影響を与えるおそれのある29河川について、令和3年度から令和6年度までの4年間は緊急浚渫推進事業債を活用し堆積土砂の浚渫および支障となる樹木の伐採を実施し、河道断面の確保に取り組みます。

状況写真

浚渫前



浚渫後



浚渫事業のスケジュール

	短期 (～R7)	中期 (R8～R12)	長期 (R13～)
河川全体			



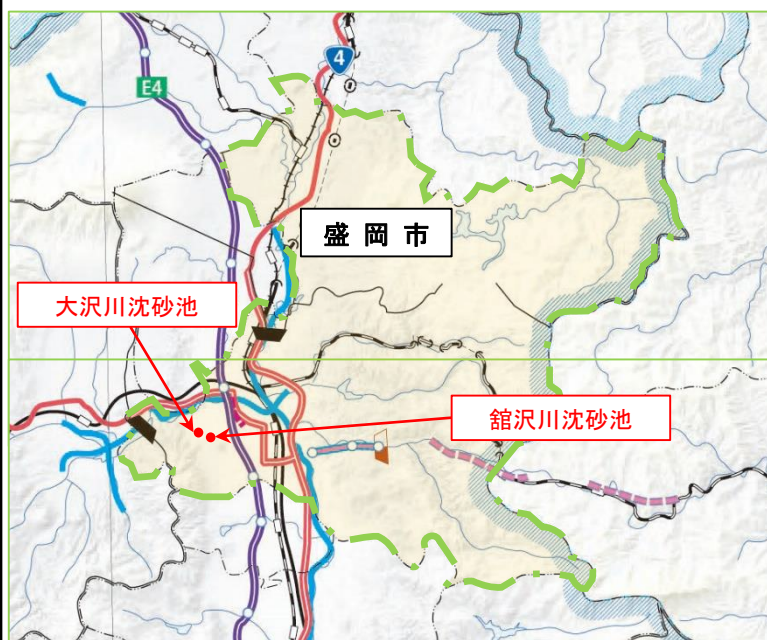
沈砂池の活用 (沈砂池を貯水池として運用することにより流出抑制を図ります)

近年の局地的な大雨による浸水被害を防ぎ、快適で安全な暮らしを守るため、既存沈砂池の貯水機能を利用し、治水安全度の向上を図ります。

具体的な取組み内容

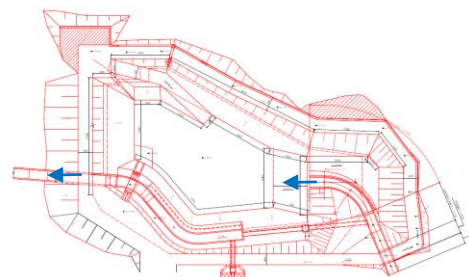
- ・ 盛岡市内に、河川氾濫防止のための沈砂池を2箇所整備済み。
- ・ 周辺環境に配慮した整備を実施。
- ・ 貯砂能力5年（平常時）以上

沈砂池位置図



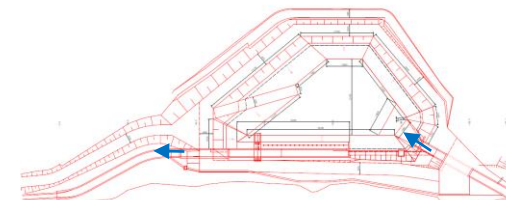
状況写真

大沢川沈砂池
貯留量 $V=3,500\text{m}^3$



貯砂能力5年（平常時）以上

館沢川沈砂池
貯留量 $V=1,900\text{m}^3$



沈砂池の維持管理

短期（～R7）

中期（R8～R12）

長期（R13～）



盛岡・北上川ゴムボート川下り大会

(河川空間をイベントなどのオープンスペースとして活用することにより環境保全し流出抑制を図ります)

北上川がもつ自然環境を活用し、イベントを開催、地域振興、環境保全に取り組みます。

大会の概要

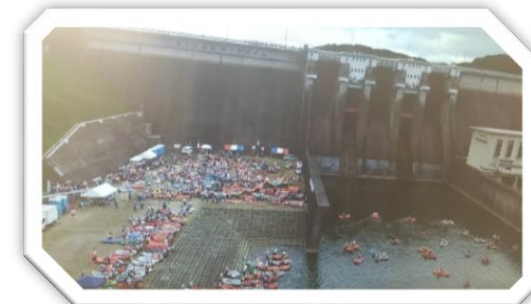
盛岡・北上川ゴムボート川下り大会は、昭和52年に「岩手河川探検隊」という有志の団体が始めたものですが、年々参加者が増加し、昭和59年からは大会事務局を盛岡駅ターミナルビル「フェザン」が、昭和62年からはJR東日本が行うようになりました。平成20年からは盛岡市が事務局を担っています。

- 例年7月第4日曜日に開催
- 2人乗りゴムボートに乗り2人1組で参加
- 競技性のあるタイムレースとアクティビティとして楽しめるフリーレースの2部門で開催

- 四十四田ダムスタート地点から上陸地点まで約11kmのコース
世界記録への挑戦
(完走艇数および完走者数による「LARGEST RAFT RACE」という新しい世界記録)

平成21年、第33回大会において世界記録を申請、タイムレース部門の「完走艇数」および「完走者数」での認定(543艇・1,086人)されるも、平成23年、スイスのベルンで破られる(607艇・1,214人)。

その後、平成27年第39回大会において世界記録奪還(814艇・1,628人)。



水辺とまちづくりに関する基本方針 (河川空間をイベントなどのオープンスペースとして活用することにより環境保全し流出抑制を図ります)

【取組内容】利用者の意見を反映した「かわ」の活用

市内中心部を流れる北上川、中津川は日頃より散策等に利用され、サケの稚魚放流会、伝統行事の「チャグチャグ馬コ」他、四季を問わずたくさんのイベント等が開催され、多くの市民、観光客に利用されています。また、新たな取り組みとして、河川敷を利用した「街なかキャンプ」、「水のほとりの上映会」や川に親しむ舟運イベント等が開催されています。市民発意による取り組み、利用者や民間事業者の意見を反映した河川空間の整備により、コロナ禍においても市民の居場所として河川空間が市民に親しまれてきています。



チャグチャグ馬コ(中津川・中の橋下流)



サケ稚魚放流会(中津川・中の橋下流)



水のほとりの上映会(中津川・中の橋上流)



木伏緑地の賑わい(北上川・開運橋上流)



舟運イベント(北上川・開運橋上流)



街なかキャンプ(北上川・木伏緑地河川敷)



水辺とまちづくりに関する基本方針

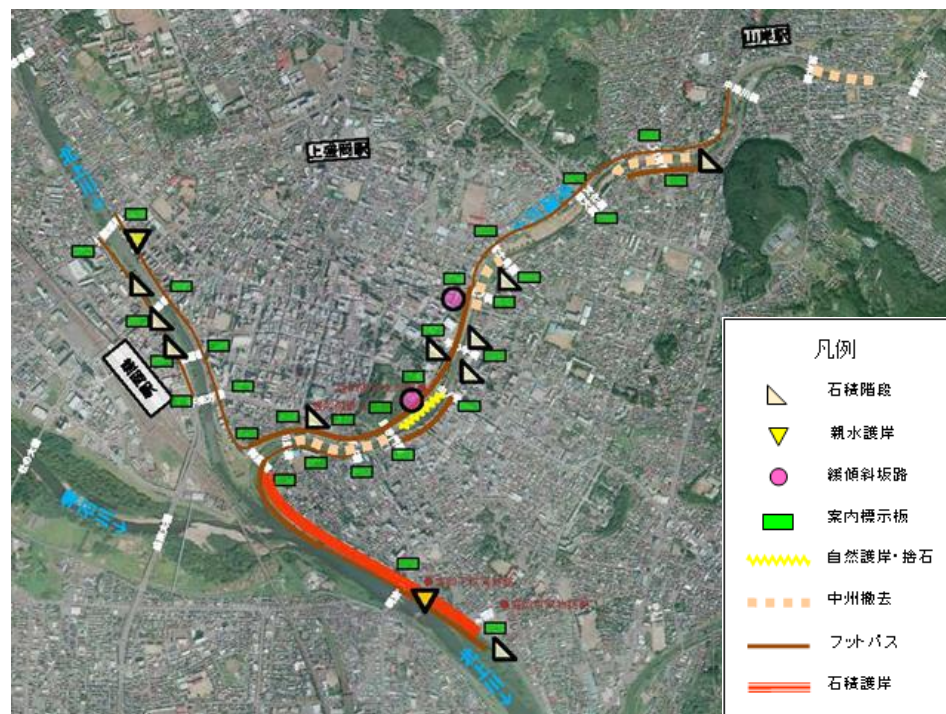
(河川空間をイベントなどのオープンスペースとして活用することにより環境保全し流出抑制を図ります)

市内中心部を流れ、歴史的に市民に親しまれてきた良好な観光資源でもある北上川、中津川の河川空間を活用することで、街なかの賑わい創出や観光振興に繋げる多くの取組みを市民、地域団体、民間、国、市が連携し実施します。

整備概要

河川空間（階段・船着き場等）の整備にあたっては、地元や民間事業者等の「まちづくりの視点」を取り入れ利用者の意見を反映したことにより、コロナ禍においても「水際の居場所」としての開放的な空間により多くの市民に親しまれています。

施設整備の状況図





基幹水路の多面的機能PR活動（国営造成施設管理体制整備促進事業）（河川環境学習を通して河川環境保全し流出抑制を図ります）

基幹水路が有する景観形成機能や親水機能等の多面的機能をPRすることを目的として、毎年9月頃に地元と小学校で連携して生き物調査などを開催します。



地元組織や小学校と連携した生き物調査



自然環境が有する多様な機能活用の取り組み【共同活動】



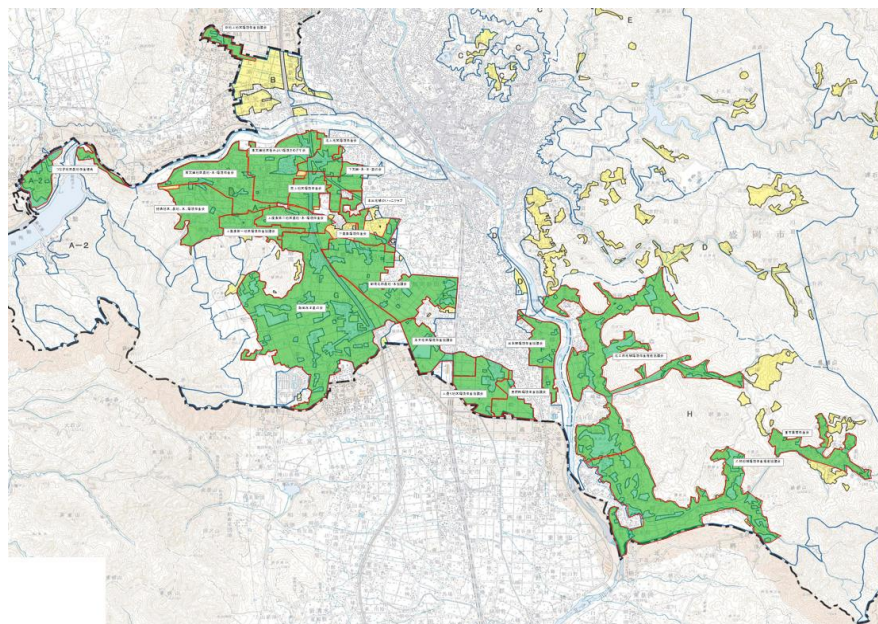
盛岡市

地域資源の保全・地域資源向上のための共同活動（多面的機能支払交付金事業）

（河川又は流域の環境保全活動を実施することにより流出抑制を図ります）

多面的機能支払交付金事業により農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進します。

多面的機能支払交付金対象農用地



水路の泥上げ・草刈り



花壇の手入れ

